

1.1.2.6-03

「し」「して」の使い分け

1.1.2.6-03_「し」「して」の使い分け_ナレッジ



「～し」

- ・動詞の連用形で、簡潔な言い方。後に繋がる部分との接続は「～して」に比べて弱い。
- ・前後の言葉は並列関係です。ただし時系列は示されます。
- ・前後の言葉の意味により、文脈としては因果関係や手段・目的関係が示されることも多いのですが、「し」自体には時系列に並べるという意味しかありません。

文脈としても時系列だけの例

「庭を掃除し、軽く体操した。」



「～して」

接続助詞「て」が付いた形で、丁寧な言い方。後に繋がる部分との接続は「～て」に比べて強い。

「～することによって～となった」という文脈を生みます

「消毒して清潔にした」

どちらも、話を繋いでいくのに使われる表現で、同じように使える場合限定で言えば、「～し」+「、」の方が、より、書き言葉的で、硬い言い回しだが、テキパキしている感じ

「て」を付けた方が、より、話し言葉的で、柔らかい言い回しだが、ちょっと間延び感がある感じ、みたいな違いがあります。

1.1.2.6-03_「し」「して」の使い分け_ナレッジ

文脈としても時系列だけの例

「服を洗濯機に入れて、部屋を掃除した」

⇒(問題は「て」の有無であり、その前は動詞の連用形なら、「し」でなくても同じ)
では順序に特に意味があることを示します。
この場合行動の順が逆だと賢くありません。

- a. 電車に乗って、東京へ行って、コンサートを見てきた。
- b. 電車に乗り、東京へ行って、コンサートを見てきた。
- c. 電車に乗って、東京へ行き、コンサートを見てきた。
- d. 電車に乗り、東京へ行き、コンサートを見てきた。

⇒まず、日本語としてb. は明らかに落ち着きません。

- ・「電車に乗る」「東京へ行く」「コンサートを見(てく)る」という3つの行為を考えた場合、単に3つの行為が並んでいると考えるなら a. やd. でいいでしょう。
(でも、a. は少し子どもの作文のような感じがします。)
- ・「電車に乗る」ことは「東京へ行く」手段を表しているわけで、
「に乗って」は単に「で」と言い換えることができます。
この場合、前2つの行為の結びつきが強く、その2つが後ろの「コンサートを見る」という部分へ続いていると考えることができます。
- ・従って、前2つの間は「て形接続」、後ろ2つの間は「連用中止」がいいことになり、
c. がいちばん適当だと言えます。
(さらに、この場合、「て」の次の「、」はないほうがいいと思われる。

→「電車に乗って東京へ行き、コンサートを見てきた。」